

高 志 の 国 文 学 館

KOSHINOKUNI Museum of Literature

芸術工学研究科建築都市デザイン領域 教授 伊藤恭行



(C) HIROSHI UEDA

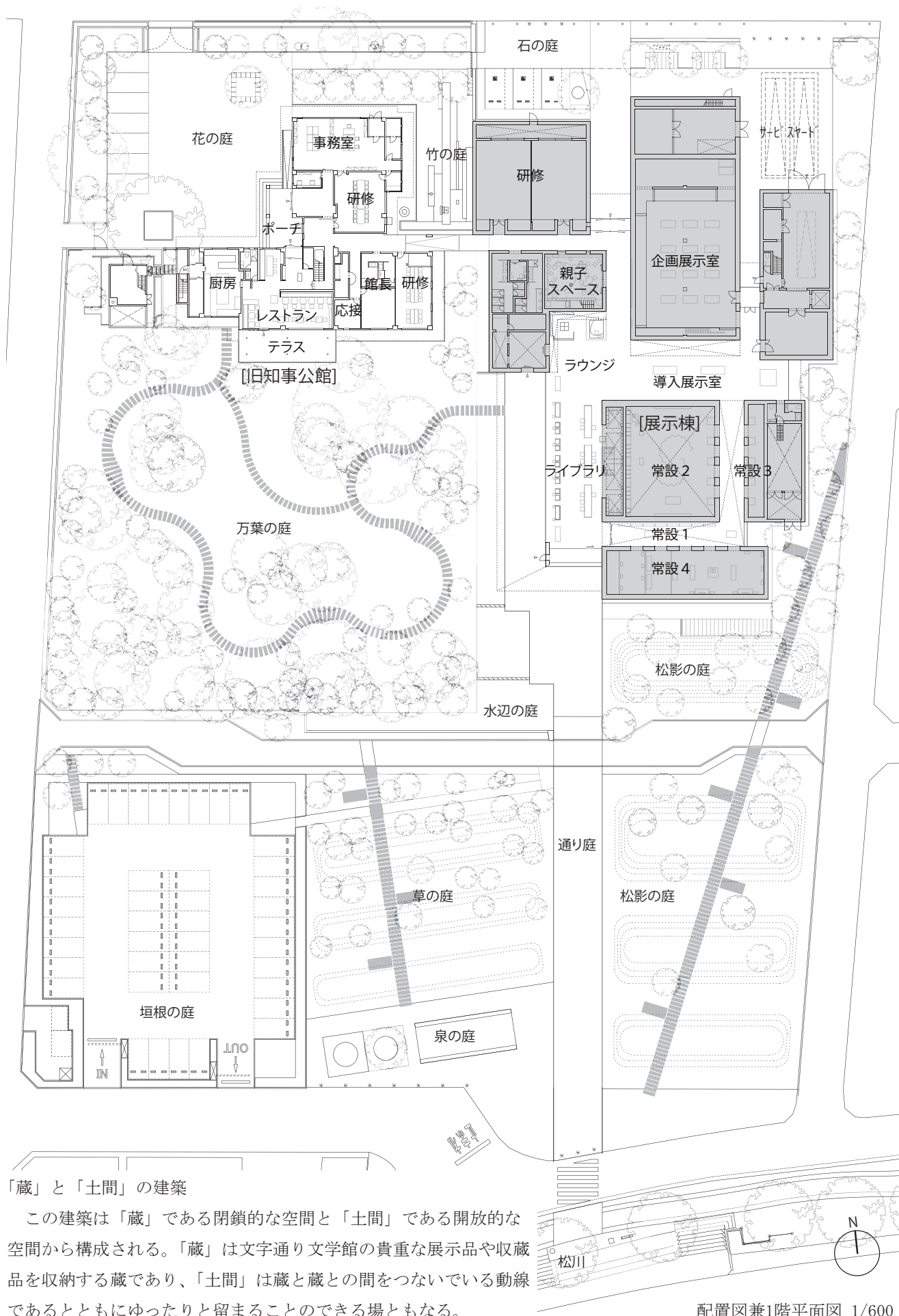
万葉の庭から展示棟をみる

〔全体計画〕

屋敷、蔵、庭

この計画は、富山市中心部の松川沿いに位置する旧県知事公館を改修し、新たに展示棟を増築することで万葉の時代から続く越中文学に関する文学館として再生するものである。ここでは、旧知事公館を屋敷、展示棟をそれに付随する蔵として位置づけ、既存の建物と庭を尊重しながら新しい空間の形成を実現した。屋敷部分には管理部門、研修室、レストラン、茶室といった地域サービス機能を設け、蔵部分には展示室、収蔵庫、学芸員室などの博物館機能が納められる。

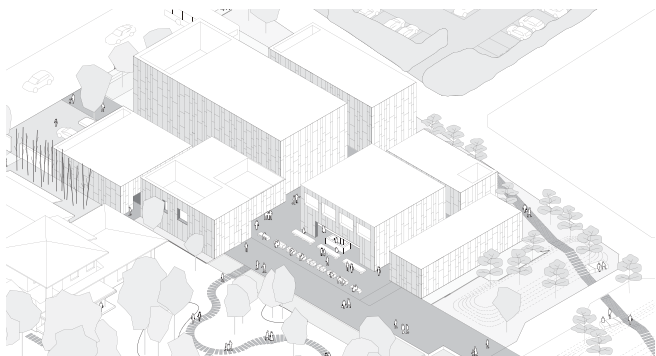
敷地全体は松川から連続するランドスケープとしてデザインされている。松川からのアプローチ空間は「水辺の庭」、そして「松影の庭」といったいくつかの庭と展示棟の内部を通り抜け、敷地全体を南北に貫通し、旧知事公館と展示棟は互いに開放された構えをとりながら中央の旧知事公館中庭を新たに整備した「万葉の庭」に面して文学館としての静かな領域を囲い込んでいる。





(C) HIROSHI UEDA

北側からの全体俯瞰 左手に展示棟、右手に旧知事公館と万葉の庭を臨む

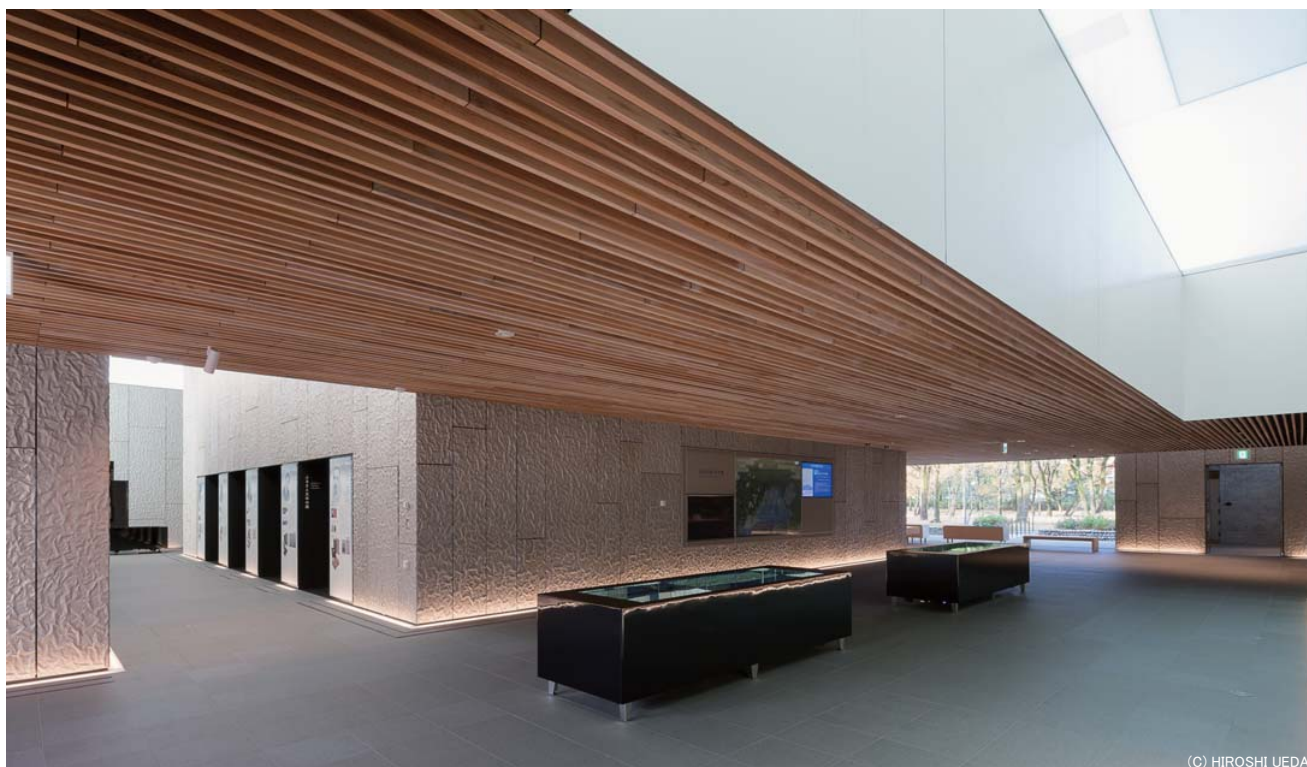


アイソメトリック



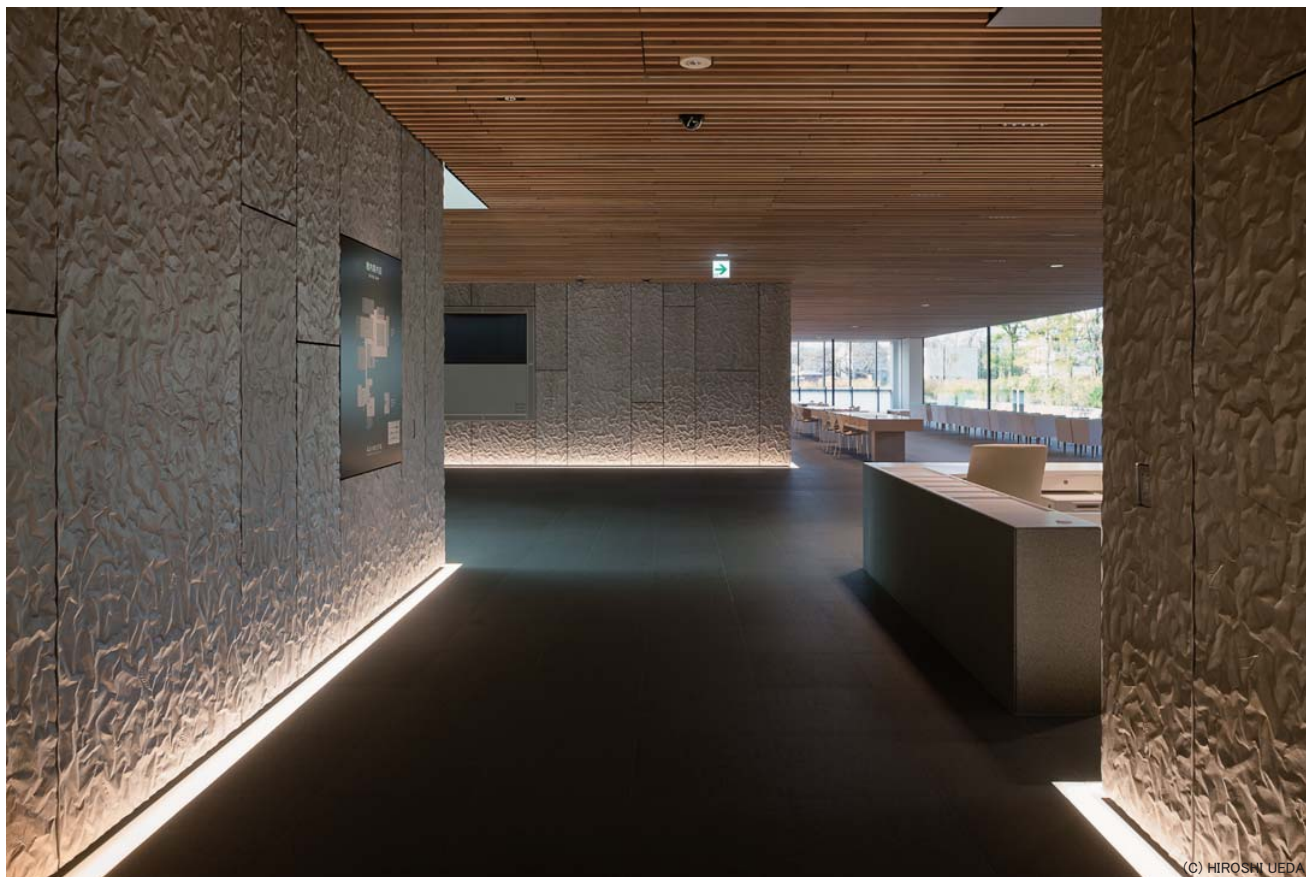
(C) HIROSHI UEDA

メインアプローチ



(C) HIROSHI UEDA

「蔵」に囲まれた「土間」は、様々な方向からの光が混在する明るく流動的な空間



(C) HIROSHI UEDA

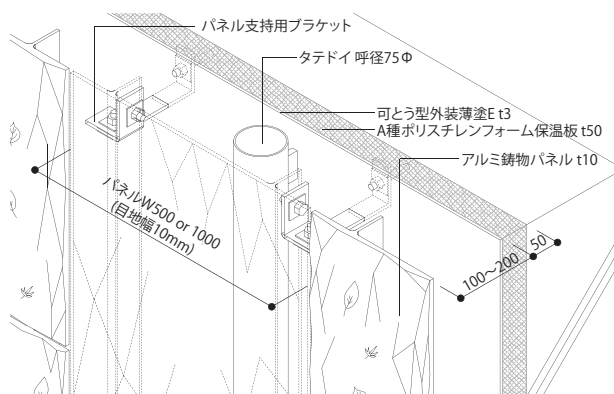
北側からのアプローチとなる「土間」



(C) HIROSHI UEDA

アルミ 鋳物パネルで覆われた「蔵」

「蔵」の外周は全て淡いシャンパンゴールド色にアルマイト処理されたアルミ 鋳物パネルで覆われている。一般的に同一の素材を風雨にさらされる屋外と環境が安定した屋内に使用すると、経年変化により内外のテクスチャーが変わってしまう。ここではアルマイト処理した鋳物パネルを選択することで、将来にわたっても内外のテクスチャーが極端に変化しないよう配慮している。また、シーリング材による汚れを排除するため、アルミ 鋳物の目地は全てオープンジョイントであり、止水は全て鋳物パネルの内側で処理している。富山県の最も重要な産業の一つであるアルミ 鋳物により、工業製品と自然素材の中間に位置するような穏やかな表情が生まれている。



「蔵」の壁面ディテール



(C) HIROSHI UEDA

常設展示の「蔵」内観



(C) HIROSHI UEDA

天井の高い「土間」の展示空間



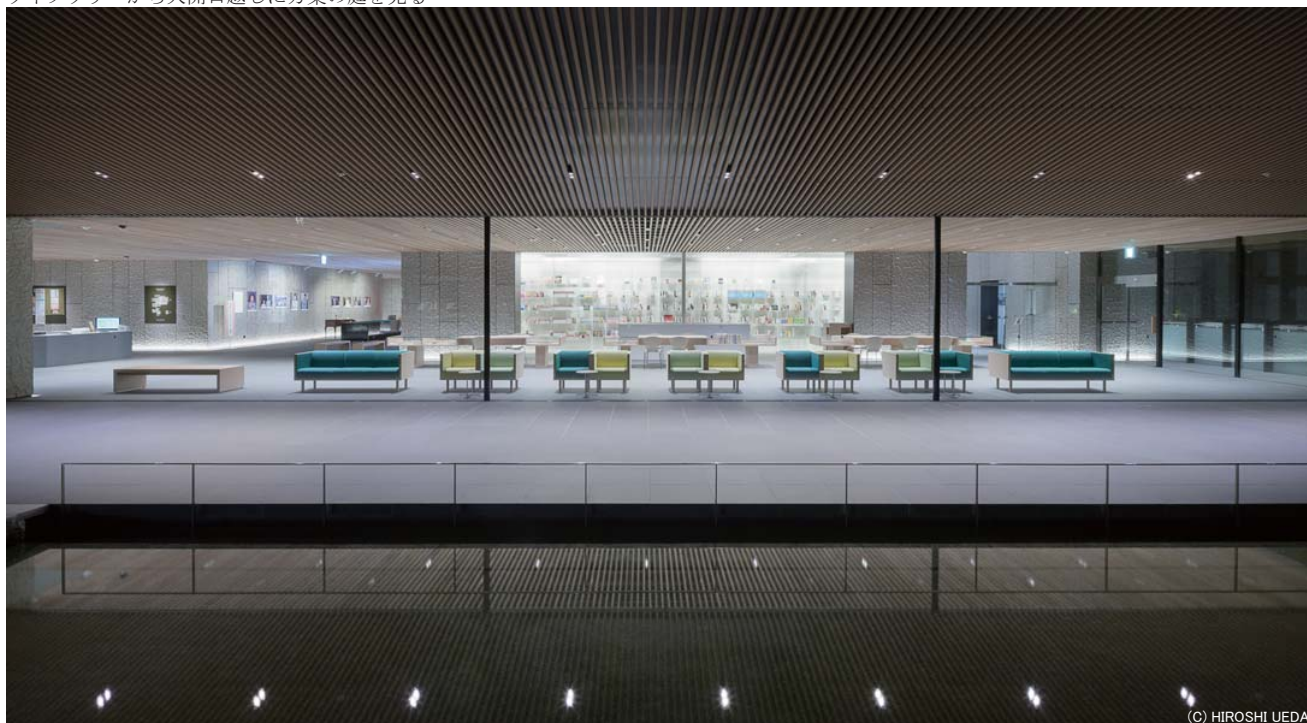
(C) HIROSHI UEDA

子供、親子のための「蔵」内観



(C) HIROSHI UEDA

ライブラリーから大開口越しに万葉の庭を見る



(C) HIROSHI UEDA

ライブラリー夜景

庭園とライブラリー／キャンチレバーとガラス面

万葉の庭に面した「土間」の領域はライブラリーとして設えられている。この空間は、柱や壁などの構造材を絞り込んだ大きな庇(キャンチレバー)の空間となっている。庭園に面した開口部は幅21mで、風景を水平に切り取っている。ここには3m×7mの大きなペアガラス3枚を設置することでサッシマリオンを可能な限り減らし、庭園への眺めを最大限確保し、展示を全て見終わった後に越中文学の書籍を読んだり、展示ゾーンに入場しない地域の住民が気軽に立ち寄ったり、ゆっくりとした時間を過ごすことができる場としている。



(C) HIROSHI UEDA

建物南のランドスケープ越しに文学館を見る



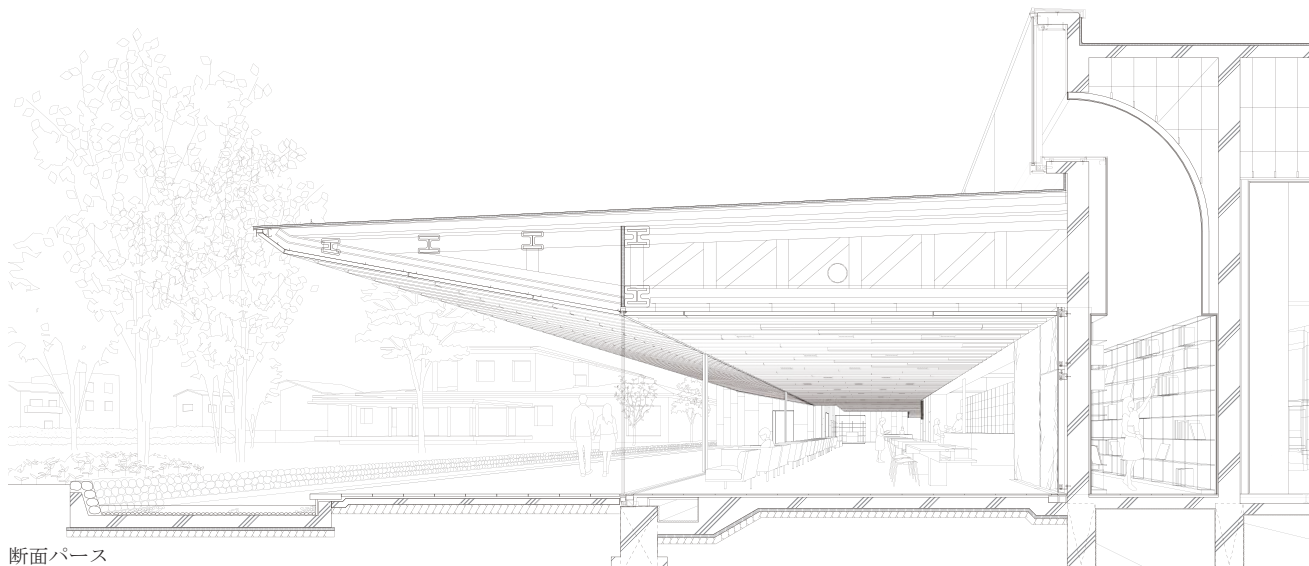
(C) HIROSHI UEDA

万葉の庭に対して開いた構えの展示棟



(C) HIROSHI UEDA

旧知事公館は万葉の庭を介して展示棟とつながる



断面バース



(C) HIROSHI UEDA

雪が降り積もった庭園と建物夜景

作品名	高志の国文学館
所在地	富山県富山市舟橋南町 2-22
建築主	富山県
設計	建築：Can 担当／伊藤恭行・磯谷直昭（本学 8 期生） ランドスケープ：プレイスメディア 担当／宮城俊作・山根喜明・岸孝 構造：藤尾篤建築構造設計事務所 担当／藤尾篤 空調衛生設備：設備計画 担当／渡辺忍 電気設備：設備計画 担当／山本修二 照明デザイン：岩井達弥光景デザイン 担当／岩井達弥・橋詰美沙 家具デザイン：藤江和子アトリエ 担当／藤江和子・野崎みどり・渡邊圭 サインデザイン：スタジオ福徳 担当／福田秀之
施工	建築：（展示棟）日本海建興・三由建設・ミヅホ建設共同企業体 担当／野上俊光・高野泰弘・大屋豪・南裕治・野原昌記・河崎智・江川圭・小林章 （旧知事公館）酒井建設 担当／中田真司
工程	設計期間 2010 年 7 月～2011 年 6 月 施工期間 2011 年 7 月～2012 年 6 月
規模	敷地面積 8,466.73m ² 建築面積 2,738.64m ² 延床面積 3,070.62m ² 地下 1 階 54.88m ² ／1 階 2,437.02m ² ／2 階 578.72m ² 建蔽率 32.35%（許容：60%） 容積率 36.27%（許容：200%） 階数 地下 1 階 地上 2 階 高さ 最高高さ 9990mm 軒高 9,420mm
構造	主体構造 鉄筋コンクリート造 一部鉄骨鉄筋コンクリート造

受賞歴	2015 年 2014 年度 JIA 優秀建築賞 [高志の国文学館]
	2014 年 THE INTERNATIONAL ARCHITECTURE AWARD 2014 [高志の国文学館]
	2014 年 IDA International Design Awards 2013 [高志の国文学館]
	2014 年 日本建築学会作品選奨 [高志の国文学館]
	2013 年 富山県建築賞 [高志の国文学館]
	2013 年 中部建築賞 [高志の国文学館]